

橋本 ひでかず NEWS



Vol.05 2021. 冬

市民相談はお気軽に！

新たな一年を希望の年へ！ 不安から安心へ

新しい年がスタートしました。令和の時代は自然災害や新型コロナウイルス感染症の拡大と私たちの暮らしを一変させました。また地球温暖化やグローバル化が進んでいき、これまでの価値観を転換することが求められる時代に、私ども公明党は、一人一人の声を大切に皆さんの暮らしの安心・安全を守るとともに、課題解決に向けて取り組んでまいります。不安から安心へ、希望ある未来のまち市原を築いていくために、公明党は、これからも皆さまの声を大切にして、市政に反映してまいります。



千葉県より、**新型コロナウイルス感染症拡大防止対策**が以下の通り示されました。

感染リスクが高まる「5つの場面」

場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、聴覚が鈍麻し、大きな声になりやすい。
- 特に飲食店などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。



場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のほしご酒では、短時間の食事に比べて、感染リスクが高まる。
- 大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、昼ラオクなどでの事例が確認されている。
- 車やバスで移動する際の中でも注意が必要。



場面④ 狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。



場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることもある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。



橋本ひでかずの



©KOMETTO

議 会 質 問 か ら



©KOMETTO

地域共生社会の実現に向けた取り組みについて

質問

相談に行くことすらできない方々にも対応するため、アウトリーチ型の支援の取り組みが必要と考えるが

答弁

自ら助けを求めることが出来ない方や世帯が増加しており、相談に来るのを待つだけでは不十分であり、アウトリーチに取り組まなければと考えております。民生委員をはじめとした地域の方々や関係機関と連携にし、本人との関係性の構築を進め、支援に繋げる取り組みを検討しています。

質問

介護者支援の強化では、当事者のみならず、介護者へのアンケートを行いニーズに合った支援体制の構築が必要と考えるが

答弁

介護の実情や介護者のニーズを把握した上で、負担軽減策等を検討することが効果的と考えます。高齢者介護では実態調査を実施しましたが、その他介護・介助等の介護者への調査は実施していない状況です。今後先進自治体を参考とし、アンケート等の実施を検討してまいります。

質問

今後策定される市原市地域共生社会推進プランにおいて、ヤングケアラーを含めた介護者支援の取り組みを明記することを要望するが

答弁

今後も介護者のニーズ把握は、的確に行っていきたい。ヤングケアラーについては、ニーズの把握が難しく、同時に、地域社会から孤立していることも懸念されることから、誰一人取り残さない地域共生社会の実現に向けて、ヤングケアラーを含む介護者支援を明記するとともに庁内連携のもと支援施策を検討してまいります。

ヤングケアラーとは

日本では、明確な定義はありませんが、厚生労働省は「本来、**大人が担うと想定されている家事や家族の世話を日常的に行っている子ども**」とし、ケアが必要なのは主に障がいや病気のある親や祖父母だが、きょうだいや他の家族の場合もあるようです。「家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている」なども含まれます。

ヤングケアラーの学校生活への影響として「**学校にあまり行けていない(休みがち)**」などがあり、進学や就職に影響するケースもあります。

市原市議会議員

後援会事務所 岩崎 1-14-8

橋本ひでかず

市政に関する みな様の声をお聞かせください

TEL & FAX 0436-24-8777